



2025年3月20日発行

拝啓

日ごとに春の暖かな日差しを感じる季節になりました。

桜の芽吹きを目にして、これから始まる新生活や去年の今頃に思いを馳せる人も多いのではないのでしょうか。

過ぎ去る季節に焦りを覚える時期かと思いますが、そんな時こそ思い出の一冊を読み返してみてもいいかもしれません。視点の変化に自身の成長を感じることができるかもしれません。

ぜひ、図書館に足を運んで、探してみてくださいね。

かしこ

～今月号のラインナップ～

Calendar

2025年4月～5月カレンダー

LiLian Special Info.

桜が咲き始める頃

今月の一冊

『月曜日の抹茶カフェ』

LiLian Interview

文学部 英語英米文化学科

井之上 洋子 先生



2025年4月・5月 カレンダー

4月

◎ 8:45~19:30 ○ 9:00~16:30

日	月	火	水	木	金	土
		1 ○	2 ○	3 ○	4 ○	5 休館
6 休館	7 ○	8 ◎	9 ◎	10 ◎	11 ◎	12 ○
13 休館	14 ◎	15 ◎	16 ◎	17 ◎	18 ◎	19 ○
20 休館	21 ◎	22 ◎	23 ◎	24 ◎	25 ◎	26 ○
27 休館	28 ◎	29 休館	30 ◎			

5月

◎ 8:45~19:30 ○ 9:00~16:30

日	月	火	水	木	金	土
				1 ◎	2 ◎	3 休館
4 休館	5 休館	6 休館	7 ◎	8 ◎	9 ◎	10 ○
11 休館	12 ◎	13 ◎	14 ◎	15 ◎	16 ◎	17 ○
18 休館	19 ◎	20 ◎	21 ◎	22 ◎	23 ◎	24 ○
25 休館	26 ◎	27 ◎	28 ◎	29 ◎	30 ◎	31 ○

◎ 開館時間が変わりました

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.

❀ 桜が咲き始める頃 ❀

少しずつ暖かくなってきました!!

新しく始まる新生活のワクワクを表すように桜も咲き始める頃ですね。
今回はそんな桜をテーマにした本を紹介します。

『桜風堂ものがたり』 913.6/Mu625/5 閲覧室 2F(読者コーナー)

書店に勤める青年、月原一整は、人づきあいは苦手だが、埋もれていた名作を見つけ出して光を当てることが多く、店長から「宝探しの月原」と呼ばれ、信頼されていた。しかしある日、店内で万引きをした少年を一整が追いかけたことが、思わぬ不幸な事態を招いてしまう。そのことで傷心を抱えて旅に出た一整は、ネットで親しくしていた桜風堂という書店を営む老人を訪ねるため、桜野町を訪ねるのだが…。

続編の『星をつなぐ手～桜風堂ものがたり～』も所蔵しています!!

『桜の森の満開の下』

913.6/Sa285/3 閲覧室 2F(読書コーナー)

鈴鹿峠の山賊と美しく残酷な女の幻想物語。

桜の森の満開の下は怖ろしいと物語られ、本能から避けていた山賊の男。盗んだ女と都へ行き殺人を重ね、空虚な日々を過ごす中で桜の森の満開の下にふと心惹かれていく。花びらとなって掻き消えた女と、冷たい虚空がはりつめている花吹雪の中の男の孤独が描かれている。



『最後の医者は桜を見上げて君を想う』 913.6/N767 閲覧室 3F

あなたの余命は半年です--ある病院で医者・桐子は患者にそう告げた。死神と呼ばれる彼は「死」を受け入れ、残りの日々を大切に生きる道もあると説く。だが副院長・福原は奇跡を信じ最後まで「生」を諦めない。対立する二人が限られた時間の中で挑む戦いの結末とは? 究極の選択を前に患者たちは何を決断できるのか? それぞれの生き様を通して描かれる眩いほどの人生の光。息を呑む衝撃と感動の物語。

(おとね)

*** 今月の一冊 ***

『月曜日の抹茶カフェ』

青山美智子 著



913.6
A587
5



閲覧室2F(読書コーナー)

今回ご紹介する『月曜日の抹茶カフェ』は、日常のちょっとした悩みや迷いをそっと癒してくれる優しい物語です。

川沿いの桜並木のそばにある喫茶店「マーブル・カフェ」。定休日の月曜日に一度だけ「抹茶カフェ」が開かれます。仕事がうまくいかない携帯ショップ店員や、恋人に別れを告げたばかりのシンガー、時代に取り残されたと感じる老舗和菓子屋の元女将など、彼らは思いがけない出会いを通じて、次の一步を踏み出していきます。連作短編集なので、前の話とのつながりを感じられるのも読んでいて楽しいポイントです。特に一話と最終話の恋模様には胸がきゅんとします♡

新しい生活が始まる春は、不安と期待が入り混じる時期だと思います。この本は、そんな時にそっと背中を押してくれるような温かさがあります。短編集なので、忙しい合間にも読みやすいのも魅力です。ぜひ新生活のスタートに、あたたかい飲み物を飲みながら読んでみてください！

(ほのか)





LiLian Interview

大すきな先生に
インタビューに
行こう 65

文学部 英語英米文化学科
井之上 洋子 先生



Q1. 趣味は何ですか？

アルペンスキーです。子どもの頃からスキーに親しむ機会が多くあり、大学生の頃には体育会系のスキー部に所属し、4年間夢中になって取り組みました。実は入社式の前々日まで試合があり、卒業式や入社式に雪焼けした状態で参加しました。今ではプロ意識がなかったと反省しています。航空会社入社後もスキー部に所属して、インターライン大会というヨーロッパ、北米、ニュージーランドなど世界中の航空会社が持ち回りで手作り開催するスキー大会に参加し、世界中に友人を作る事ができました。

また美術館や博物館、図書館巡りも好きです。パリに住んでいた頃通年券を使って「今日はこの階を見よう」と決めて美術館や博物館に通いました。開館と同時にに入った瞬間絵画に招かれているような、重厚感のある雰囲気を感じることができとても印象深いです。

Q2. 今まで行った国の中でどこが一番印象に残っていますか？

パリの街です。航空会社に勤務していたとき、ステーションクルーと言うヨーロッパ間だけを乗務する部署に就いて、4か月間パリに住んでいました。(当時)カルト・オランジュと言う定期券を使って、パン屋さん巡りなど暮らすように過ごしていたのでパリの街が思い出深いです。

また、上空から見る景色がとても好きで、コックピットの目の前で繰り広げられるオーロラがカーテンのように迫る様子には圧倒されました。

Q3. 外国で驚いた事は何ですか？

お店に入る時、出る時に、必ず挨拶をする事です。特にヨーロッパ系の方々はお店を大事大切なお家と考えているので、入ったら挨拶をし、出る時にも挨拶をします。そうすることで売り買いだけでなく、お家を訪ねた人としての対等な感覚ができるので大切な習慣だと思います。

東西冷戦時代に乗務でソビエト連邦や東ベルリンを訪問したときには、電話をすべて聞かれていたり、行動を監視されていたりと日本では考えられない体験をしました。

Q4. 留学するのにオススメの国はどこですか？

マルタ共和国です。マルタ共和国は様々な国や地域からの留学生が多く、より多様な文化に触れる事ができるからです。地中海性気候なので温暖で、治安も良くとても生活しやすいです。また EU・シェンゲン協定加盟国なので、ヨーロッパ諸国を気軽に旅行できます。

また私は海外を訪れる時に「持って帰れないものを体験する」

「現地の言葉 3 ワード（特に挨拶）を覚えて話す」

「その土地のスーパーマーケットをチェックする」

という 3 つのポリシーをもっています。

皆さんも海外に行くことがあったら

是非実践してほしいです。



Q5. 大学教員になったきっかけは何ですか？

一言で言うと、神様に選ばれたからです。私は客室乗務員として 26 年間勤務したのちに退職しました。何をやりたいかゆっくり自己分析をするために、ハローワークの求職者職業訓練を受講しました。しかしその講座の二日目に「あなたは講師に向いているから、ここで教えてみませんか」とお誘いを受け、考えた末に訓練の講師をやらせていただく決意をしました。そこで教える喜びを知り、その後ご縁があって金城学院大学の教員となりました。今、一番やりたかった仕事に出会っています。ここまで来るのに長い道のりがあったように思えますが、人生に無駄なことはありませんでした。すべてのことが今に繋がっていると感じます。

Q6. エアラインの授業ではどんなことが学べるのですか？

航空業界の基礎知識はもちろんですが、丁寧な英語表現やホスピタリティ、コミュニケーションスキルなど実践を通して身につけられます。人生の幹となるアサーティブなコミュニケーションスキルを育みます。航空会社現役社員の指導のもと、課題解決型学習をしたり、フィールドワークとして国際空港で実際に働く社員から仕事について学び、疑似体験をしたりします。



Q7. おすすめの本は何ですか？

『黒い皮膚・白い仮面』フランツ・ファノン/著（請求記号: 316/F14）

学生時代に読み、卒論を執筆するきっかけになった本です。差別が生まれる構造をどう乗り越えるか、精神医学・心理学の立場から追求した精神科医の著書です。

「BLM 運動」により近年読み直されています。

『セルフ・コンパッション』クリスティン・ネフ/著（請求記号: 146.8/N61）

今はネット社会で情報が入りすぎるため、自分が疲れてしまったり振り回されたりします。相手だけを大切にではなく、あるがままの自分、ネガティブな自分をも受け入れ大切にすることについて書かれた本です。

『続 ほっとする禅語』石飛博光/著（請求記号: 188.8/N92/(2)）

挨拶という言葉は禅問答の用語です。“挨拶”は「相手の心を押して開く」「拶」は「迫る」という意味があります。禅語を少し学んでみると、私たちの日常生活でよく使われる言葉や考え・行動は、禅語に由来していると分かります。

Q8. 金城生に一言お願いします！

『若草物語』の著者の「雲の向こうは、いつも青空」という言葉があります。飛行機に乗るとそれを実感します。また、競技スキーでは、目の前の障害ばかりを見ているとゴール（目標）を見失って転倒してしまいます。障害だけを見ないでゴールを見て！但し、狭いゴールに執着しすぎるとほかのゴールがあることに気づけなくなってしまう。諦めないことは良い事ですが、時には受け入れて前に進むことが大切です。

<四択クイズ> 飛行機が離陸するのに必要な風はどれでしょう？

1. 追い風
2. 向かい風
3. 横風
4. つむじ風

飛行機が離陸する時に必要な風は「2.向かい風」です。人生においても同じです。より高く飛び立つために、学生時代はこの向かい風を受けて滑走するときだと思えます。キツイ・苦しいと覚えることも、きっと自分が高く飛び立つ力に変わります。応援しています。

インタビューを終えて

井之上先生のインタビューはまるで世界旅行に連れて行ってもらっているような感覚でした。言葉だけなのに風景が見えてくる、そんなインタビューになりました。特に競技スキーのお話は心に残り、障害物を見すぎては転んでしまう、という言葉がスキー以外の場面でも通ずる、とてもいい言葉だと思いました。短い時間でしたが自分のこれからをも見つめ直す、そんなきっかけにもなりました！

(石川)

井之上先生は自分が経験したことのない、見たことのない世界についてのお話をたくさんしてくださって、とても刺激的で楽しいインタビューをさせていただきました。話してくださった事には今からでもできる事があったので実践してみようと思いました。井之上先生貴重なお話をしていただきありがとうございました。

(きょうか)

